

事例4

テーマ：介護助手導入

概要：介護職員が直接業務に専念できるよう役割分担を明確化し、より効果的なケアが提供できるようにする。
介護助手を導入することで働きやすい環境を整え、職員の離職率の低下を防ぐ。

事業所概要

事業所名：特別養護老人ホームかぐのみ苑（海南市下津町丸田 1 1 1 1 - 1）
サービス種別：老人福祉施設（定員：50人）
介護職員数：24人
プロジェクトメンバー：介護主任、副主任、介護職員、施設長、事務長

事業所が抱えていた課題（取組に至った背景）

課題：人員不足から介護職員の業務量が逼迫しており職場の人間関係も悪化しつつある。直接業務・間接業務の業務の切り出しを行い、間接業務の一部を介護助手にお願いすることで介護職員の負担軽減を図る。
◆ 介護職員が間接業務を行っており、利用者様と接する時間が限られている

課題解決のプロセス

- Step1 業務の棚卸しを行い、間接業務と直接業務を分ける
- Step2 看護職員、介護職員、シニアパート介護職員、介護助手、清掃員ごとに時系列分担表作成
- Step3 時系列分担表で、業務の見直し
- Step4 介護助手募集方法検討
- Step5 介護助手採用

取組時のポイント・工夫

- 介護助手採用時のポイント
勤務時間・業務内容についての説明を行い、本人の希望に合わせて勤務時間の設定を行い、業務内容をすり合わせていく。
介護助手A 1日2.5時間 x 週3(60代男性)
介護助手B 1日4時間 x 週5（70代男性）

業務の棚卸し

No	業務概要	頻度	時間(1回あたり)	分類			補足があれば
				やめる	変える	介護助手	
1	カーテンを開ける	毎日	15分			○	3F28か所、4F22か所、15分x30日=450分 7.5時間/月
2	豆球を消す	毎日	10分			○	3F19室4F22室、10分 X 30日 = 300分 5時間/月

質的な成果

- ✓ 介護職員の直接業務に関わる時間が増えた

量的な成果

- ✓ 介護助手2名採用
- ✓ 業務分担表を作成し、食事の時間帯の介護職員の負担を軽減するために看護職員が介助に入ることにより1ヵ月あたり300分軽減。

同様の取組を検討している事業所へのアドバイス

介護職員が間接業務を担っている部分が多かったが、介護助手採用により直接業務に専念する時間が増え介護職員の負担軽減につながっている。業務の切り出しを行ったことによりそれぞれの職種の業務内容が可視化され担当の業務を見直すきっかけとなった。
人員不足の中、プロジェクトメンバーで話し合う時間が難しい時もあったが、取組んだことにより成果として介護助手導入に至った。
取組まなければ改善することはないため、とりあえずやってみることが大切。